

市民参加でアメリカザリガニ防除 伝えたいポイント ～水辺の人気者か？厄介者か？

佐藤方博（認定 NPO 法人 生態工房）

外来種対策において重要な役割を持つ普及啓発活動は、当該種によって引き起こされる被害の実態や具体的な対策、市民にできることを伝え、防除の理解者・協力者を増やして対策を進めやすくすることを目的としている。ところがアメリカザリガニの普及啓発活動においては、生体を触らせて喜ばせる、駆除釣りを楽しませる、身近な水生生物として生態や生活史を学ばせるといった企画が散見され、生態系被害や外来種問題が適切に伝わっていないのではないかと演者は懸念している。環境省では2019年度から本種による被害防止対策を検討しているほか、最近では防除や技術開発に取り組む自治体や市民団体も増えている。こうした情勢を踏まえると普及啓発活動における本種の扱いは、「水辺の人気者」として参加者に迎合するのではなく「厄介者」として被害や問題を伝えることを主軸にし、被害防止策や防除の方法を広めていくことが期待される。

演者は上尾丸山公園（埼玉県上尾市）においてアメリカザリガニ防除イベントの運営に携わっている。参加者に対しては駆除目的の捕獲であること、本種が侵略的外来種であること、駆除後に目指す水辺の将来像をはっきり伝えている。ザリガニ好きの指導者がつい教えたくなる、いわゆるザリガニのヒミツ（からだのつくり、雌雄の違い、ニホンザリガニとの違いなど）は披露しない（質問されれば答える）。2020年8～12月に9回開催し、のべ300人が参加した。

本発表では防除イベント「みんなで水辺守」での解説の骨子を紹介する。

	流れ	道具、教材など	参加者の様子
かいぼりの取組	この池で2019年度にかいぼりをした。市民ら300人以上が参加。ブルーギルなどの外来魚を駆除した。	かいぼりの様子パネル(魚とり、浅場整備、観察会)	子どもを中心に、かいぼりについて知っていることをしゃべっている
	アメリカザリガニはかいぼりで駆除できない。本種は生態系被害防止外来種リストの掲載種。	千葉県自然保護課ポスター(STOP! アメリカザリガニ) 国による対策の紹介(ザリガニ類規制ポスター)	へえ～と感心している大人が多い
ワナ上げ体験	かいぼり後も、市とボランティアが協力してアメリカザリガニ防除に取り組んでいる。今日は一緒にやりましょう。	ボランティア「上尾水辺守」を紹介	
	池に設置されているワナの回収、捕れた生きものの観察。	各班4個程度のワナを回収	生きものの採取を楽しんでいる
	全班がワナ上げから帰還。捕れた生きもののおさらい解説。	プラケース、生きものパネル	子どもを中心に、興奮してしゃべっている
生態系被害	アメリカザリガニは、水草を食べたり、切断して消滅させたりする。		
	ある池では、アメリカザリガニが棲み着く前は、水草が繁茂し、水が澄んでいた。	アメリカザリガニ侵入前の景観写真	解説に集中し静かになる
	侵入後、水草が消え、水は茶色く濁ってしまった。	アメリカザリガニ侵入後の景観写真	小さなどよめき
	パネルの茶色い池は、この公園の池と似ていませんか？ アメリカザリガニがいなくなれば水草が回復して豊かな自然がよみがえるかもしれない。		静かに聞き入っている様子
まとめ	防除活動を続けていくのでまた協力してください。池の様子を見守ってください。	感謝状型解説シートを贈呈	